

Q

# かぜが治ったあとも、 嗅覚が戻らない

55歳、男性。3カ月前にかぜをひき、かぜの症状は2週間ほどで治りましたが、その後、嗅覚が戻らず、食べ物のにおいなどが感じられません。耳鼻咽喉科に受診し、ビタミンBと点鼻薬で治療して1カ月たちますがよくなりません。(愛媛県 K)



笠井 創

笠井耳鼻咽喉科クリニック・  
自由が丘診療室（東京都）

A

感冒罹患後嗅覚障害の治療には、ステロイドの点鼻療法や局所注射、ビタミンB<sub>12</sub>などの内服を根気強く継続する。

かぜをひいて鼻がつまり、においがわからなくなることは、日常誰もが経験することです。これは、かぜ症候群に伴う鼻粘膜の腫脹や鼻腔内に貯留した鼻汁によつて、においの粒子を含んだ空気の通り道がふさがれ、におい物質がにおいを感知する嗅粘膜にまで到達しないためにおこる病状です。このような嗅覚障害は呼吸性嗅覚障害と呼ばれ、かぜが治り鼻水が出なくなつて鼻閉（鼻づまり）が改善するとたいていは嗅覚も回復します。

しかし、副鼻腔炎（蓄膿症）を合併しているような場合には、鼻漏がつづき嗅覚の改善が遅れることがあります。そのときは抗生物質や消炎酵素剤の内服と点鼻薬などを用いて炎症を抑えると同時に、鼻の処置やネブライザー療法といった耳鼻咽喉科での治療も必要になります。

ところが、かぜが治つて数週間以上たつてもにおいが戻らない「感冒罹患後嗅覚障害」と呼ばれる病状があります。感冒罹患後の嗅覚障害の原因については完全に解明されていませんが、かぜウイルスによつて嗅粘膜に存在する嗅神経細胞

や嗅腺が障害されるためではないかと考えられています。このような嗅覚障害は、嗅上皮性嗅覚障害あるいは嗅神経性嗅覚障害と呼ばれ、時間とともに徐々に回復する場合もありますが、回復しないケースも半数近く存在します。

嗅覚障害の診断は、耳鼻咽喉科で鼻の内視鏡検査やレントゲン検査によつて鼻粘膜の腫脹や分泌物の貯留がないかどうかを診察します。嗅覚検査としては、5種類のにおいをかいでみる基準嗅覚検査やにんにく臭のする注射液を用いた静脈性嗅覚検査が行われます。これによつて嗅覚の障害程度や回復の可能性に関して判断することができます。

嗅神経性嗅覚障害の治療には、ステロイドの点鼻療法あるいは局所注射、末梢神経障害の治療薬であるビタミンB<sub>12</sub>やATP製剤などの内服を継続することが通常行われます。正常な嗅細胞は常に再生をくり返しているため、その再生力を促すのが目的の治療ですが、すぐに改善しない場合も多いので、根気強く治療を継続されることをおすすめします。